

1 年

0 なかよし (教科書1:p.4~9 時期:4 月 配時:3 時間)

〔単元の目標〕

観点に基づいて仲間集めをしたり、物の個数の多少の比べ方を考え、数を比較したりすることができる。

知 観点に基づいて仲間集めをしたり、1対1対応によって物の個数の多少を比べたりすることができる。

考 物の個数の多少の比べ方を工夫することができる。

主 仲間集めや多少比較に親しみ、そのたのしさやよさを感じながら学ぼうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 なかまあつめ (教1:p.4~5)	1	・ 示された観点や自分で決めた観点に基づいて、同じとみられる物をまとめて捉える。	知 仲間集めをするときの観点を理解している。 主 示された観点や自分で決めた観点をもとに、仲間集めをしようとしている。
2 くらべよう (教1:p.6~9)	2	・ 物の個数の多少を、比べる対象どうしを線で結ぶ1対1対応によって比較する。	知 1対1対応によって物の集まりの要素の個数が比較できることを理解し、直接比較をすることができる。 考 物の個数の多少を工夫して比 べている。
	3	・ 物の個数の多少を、操作しやすい物に置き換えて、1対1対応によって比較する。	知 1対1対応によって物の集まりの要素の個数が比較できることを理解し、間接比較をすることができる。 考 物の個数の多少を工夫して比 べている。 主 間接比較のよさに気づいてい る。

1 10 までの かず (教科書Ⅰ:p.10~27 時期:4~5 月 配時:10 時間)

〔単元の目標〕

10 までの数について、数の数え方、数字の書き方、読み方などを理解するとともに、数系列についての学習などを通して数の概念について理解する。

知 10 までの数の数え方、数字の書き方や読み方、数の順序、系列や大小について理解し、10 までの数について数えたり、数字を読んだり書いたり、物の個数を比べたりすることができる。

考 身の回りの物を、色や形などを捨象して、個数に着目して捉え、数の大きさや比べ方をブロックや絵などを用いて表すことができる。

主 数に親しみ、身の回りの物を数字で表すなど、数字の書き方や読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 5までの かず (教科書Ⅰ:p.10~15)	1	・ 1から5までの数を唱えたり、数えたり、数字を読んだりする。	知 1 から 5 までの数の唱え方や、数字の読み方を理解している。 考 身の回りの物を、色や形などを捨象して、個数に着目して捉えている。
	2 3	・ 1から5までの数と、数図やブロック等との関係の理解を深める。 ・ 1から5までの数字を書き、数の概念と関連付ける。	知 半具体物や数図や数字などを用いた、1 から 5 までの数の表し方を理解し、数字を書くことができる。 主 物の個数を工夫して表そうとしている。
2 10までの かず (教科書Ⅰ:p.16~21)	4	・ 6から10までの数を唱えたり、数えたり、数字を読んだりする。	知 6 から 10 までの数の唱え方や数え方、数字の読み方を理解している。 考 身の回りの物を、色や形などを捨象して、個数に着目して捉えている。
	5 6	・ 6から10までの数と、数図やブロック等との関係の理解を深める。 ・ 6から10までの数字を書き、数の概念と関連付ける。	知 半具体物や数図や数字などを用いた、6 から 10 までの数の表し方を理解し、数字を書くことができる。 主 音など消えてしまう物の数を工夫して数えようとしている。
3 かずを さがそう (教科書Ⅰ:p.22~23)	7	・ 10 までの数を用いて、身の回りにある物の個数を数える。	考 身の回りの物の個数について説明している。 主 身の回りにあるいろいろな物の

			個数を数えようとしている。
4 0と いう かず (教1 p.24)	8	・ 1つもないことを0と書き表すことを知る。	知 0の意味や読み方、書き方を理解し、個数が「無」であることを「0」で表すことができる。
5 かずの おおきさくらべ (教1 p.25)	9	・ 1から10までの数の多少や、 大小を判断する。	知 1から10までの数の多少や大小を比較することができる。 考 物の集まりの多少や数の大きさをブロックや数字を用いて捉えている。
6 かずの ならびかた (教1 p.26～27)	10	・ 0から10までの数の系列が分かる。	知 0から10までの数を順序よく並べることができる。 考 一定間隔で並んだ数の列について、きまりを見つけて考えている。

2 なんばんめ (教科書Ⅰ:p.28～32 時期:5月 配時:3時間)

〔単元の目標〕

数を順序や位置を表すものとして捉え、順序数と集合数の違いを理解し、前から○番目のように物の位置を表すことができる。

知 順序数と集合数の違いを理解し、順序や位置を順序数を用いて表すことができる。

考 数を順序や位置を表すものとして捉え、基点を決めて順序や位置を多様に表すことができる。

主 前後などの言葉と数を用いると順序や位置を正確に表すことができるというよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
Ⅰ なんばんめ (教科書Ⅰp.28～32)	1	・「前から○番目」、「上から○番目」、「左から○番目」などの言葉を用いて、順序や位置を正しく表す。	知 順序や位置の表し方を理解し、前後などの言葉と数を用いて表すことができる。 考 数を順序や位置を表すものとして捉え、基点を決めて順序や位置を多様に表している。
	2	・具体的な場面で、順序数と集合数の意味の違いを理解し、それらを用いる。	知 順序数や集合数で表された物を指摘することができる。 考 具体的な場面で、順序数と集合数の違いを考えている。
	3	・方向を表す言葉(前後、左右)と、数を用いた平面上の物の位置の表し方を理解する。	知 平面上での位置の表し方を理解し、物の位置を前後、左右の言葉と数を用いて表すことができる。 主 順序数を用いると位置を正確に表すことができるよさに気づいている。

3 いくつと いくつ (教科書Ⅰ:p.33~40 時期:5~6月 配時:7 時間)

〔単元の目標〕

1つの数を2つの数の和としてみる見方を理解し、1つの数を2つの数に分解したり、数の構成を理解したりする。

知 10までの数を2つの数に分解することができ、10までの数の構成を理解する。

考 1つの数を他の数の和として多様に捉えたり、数の並びから規則性を見いだしたりすることができる。

主 数の構成的な見方に親しみ、様々な数を2つの数の和として捉えようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 いくつと いくつ (教科書Ⅰ:p.33~40)	1	・ 5を2つの数に分解し、2つの数の和として捉え、5の数の構成を理解する。	知 5を2つの数に分解することができる。
	2	・ 6を2つの数に分解し、2つの数の和として捉え、6の数の構成を理解する。	知 6を2つの数に分解することができる。
	3	・ 7を2つの数に分解し、2つの数の和として捉え、7の数の構成を理解する。	知 7を2つの数に分解することができる。 主 5~7の分解の学習をもとに、数の範囲を拡張させ、8や9などについても考えようとしている。
	4	・ 8を2つの数に分解し、2つの数の和として捉え、8の数の構成を理解する。	知 8を2つの数に分解することができる。
	5	・ 9を2つの数に分解し、2つの数の和として捉え、9の数の構成を理解する。	知 9を2つの数に分解することができる。
	6 7	・ 10を2つの数に分解し、2つの数の和として捉えたり、順序よく並べたときの規則性を見つけたりして、10の数の構成を理解する。また、ゲームを通して、10の補数関係について習熟する。	知 10を2つの数に分解することができる。また、10の数の構成を理解している。 考 関数的な見方や考え方を働かせ、順序よく並べたときの規則性について考えている。 主 数の並びの規則性の面白さに気づいている。

4 あわせて いくつ ふえると いくつ

(教科書 2: p.3~12 時期: 6 月 配時: 8 時間)

〔単元の目標〕

加法の意味を操作などをもとに理解し、場面を加法の式に表して計算することができる。

知 合併、増加の場面について、加法の意味を理解するとともに、場面を式に表して計算することができる。

考 数量の関係に着目し、加法の場面であることを操作や図、言葉などで説明したり、式を読み取って、合併や増加の問題をつくったりすることができる。

主 身の回りから加法が用いられる場面を見いだすなど、加法の計算を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 あわせて いくつ (教 2: p.3~6)	1	・ 合併の場面について、加法の意味を理解し、式に表す。	知 合併の場面について、加法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から合併の場面を見いだし、加法に進んで関わろうとしている。
	2	・ 合併の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 加法の場面の理解を深め、図での表し方を理解している。 考 加法の場面であることを操作や言葉などで説明している。
	3	・ 問題文から合併の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 合併の場面を捉え、式に表し、和が 10 以下の加法の計算ができる。 考 加法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。
2 ふえると いくつ (教 2: p.7~10)	4	・ 増加の場面について、加法の意味を理解し、式に表す。	知 増加の場面について、加法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から増加の場面を見いだし、加法に進んで関わろうとしている。
	5	・ 問題文などから増加の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 増加の場面を捉え、式に表し、和が 10 以下の加法の計算ができる。 考 加法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。
	6	・ 加法の式と絵を見て、合併や増加の問題をつくる。	考 加法の式と絵を見て、合併や増加の場面を捉え、言葉で表現している。

3 たしざんカード (教2p.11)	7	・ たし算の計算カードを使って練習し、和が10以下の加法の計算をする。また、答えが同じになるカードを集める。	知 和が10以下の加法の計算が確実にできる。
4 0の たしざん (教2p.12)	8	・ 0を含む加法の式の意味を理解する。	知 0を含む加法の意味を理解している。 考 これまでの加法の意味をもとに、0を含む加法の式の意味を捉えている。

5 のこりは いくつ ちがいは いくつ

(教科書 2:p.13~26 時期:6~7 月 配時:11 時間)

〔単元の目標〕

減法の意味を操作などをもとに理解し、場面を減法の式に表して計算することができる。

知 求残、求補、求差の場面について、減法の意味を理解するとともに、場面を式に表して計算することができる。

考 数量の関係に着目し、減法の場面であることを操作や図、言葉などで説明したり、式を読み取って、求残や求差、求補の問題をつくったりすることができる。

主 身の回りから減法が用いられる場面を見いだすなど、減法の計算を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 のこりは いくつ (教 2:p.13~17)	1	・ 求残の場面について、減法の意味を理解し、式に表す。	知 求残の場面について、減法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から求残の場面を見だし、減法に進んで関わろうとしている。
	2	・ 求残の場면을捉え、式に表して答えを求める。	知 減法の場面の理解を深め、図での表し方を理解している。 考 減法の場面であることを操作や言葉などで説明している。
	3	・ 求補の場면을捉え、減法になることを理解し、式に表して答えを求める。	知 求補の場面が減法になることを理解し、式に表して、計算することができる。 考 減法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。
2 ひきざんカード (教 2:p.18)	4	・ ひき算の計算カードを使って練習し、10 以下の数から1位数をひく減法の計算をする。また、答えが同じになるカードを集める。	知 10 以下の数から1位数をひく減法の計算が確実にできる。
* ふたりで おいかけっこ (教 2:p.19)	5	* 10 以下の数から1位数をひく減法の計算に習熟する。	知 10 以下の数から1位数をひく減法の計算が確実にできる。
3 0の ひきざん (教 2:p.20)	6	・ 0を含む減法の式の意味を理解する。	知 0を含む減法の意味を理解している。 考 これまでの減法の意味をもとに、0を含む減法の意味を捉え

			ている。
4 ちがいは いくつ (教 2 p.21～24)	7	・ 求差の場面について、減法の意味を理解し、式に表す。	知 求差の場面について、減法の意味と式の表し方を理解している。 主 日常の事象から求差の場面を見だし、減法に進んで関わろうとしている。
	8	・ 問題文から求差の場面を捉え、式に表して答えを求める。	知 求差の場面を捉え、式に表して、計算することができる。 考 減法の場面であることを操作や言葉、図などで説明している。
	9	・ 減法の式と絵を見て、減法の問題をつくる。	考 減法の式と絵を見て、減法の場面を捉え、言葉で表現している。
5 たしざんかな ひきざんかな (教 2 p.25)	10	・ 具体的な場面で、どんな計算になるかを考え、加法、減法の演算決定をし、立式して計算で答えを求める。	知 加法や減法を適用し、立式して計算で答えを求めることができる。 考 場面の数量の関係を捉え、演算決定したり、ブロックや図で説明したりしている。
たしかめもんだい (教 2 p.26)	11	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 問題場面から式を立て、加法や減法の計算をすることができる。
*おはなしづくり (教 2 p.27)	1	* お話づくりを通して、加法や減法の意味理解を深める。	主 日常の事象やこれまでの経験から加法や減法になるお話をつくろうとしている。

*算数たまたばこ

6 かずしらべ（教科書 2: p.28～31 時期: 7 月 配時: 2 時間）

〔単元の目標〕

物の個数について、絵を用いた簡単なグラフに表し、特徴を読み取ることができる。

知 物の個数を絵を用いたグラフに表したり、大小を比べたりすることができる。

考 個数の大小が分かりやすくなるように、並べて整理したり、大きさをそろえたりするなどの、表し方の工夫を考えることができる。

主 物の個数を絵を用いたグラフに表すよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I かずしらべ (教 2 p.28～31)	1	・ 物の個数を比べるために、絵を用いた簡単なグラフに表したり、読み取ったりする。	知 カードを用いて簡単なグラフに表したり、グラフを読み取ったりすることができる。 考 物の個数が分かりやすくなるように整理する方法を考えている。
	2	・ 物の個数を比べるために、大きさをそろえてから絵を用いた簡単なグラフに表したり、読み取ったりする。	知 物の個数を大きさをそろえて表すと、個数の大小が正確に分かることを理解している。 主 絵を用いた簡単なグラフを生活や学習に生かそうとしている。
ふくしゅう (教 2 p.32)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

7 10 より おおきい かず (教科書 2: p.33~46 時期: 9 月 配時: 9 時間)

〔単元の目標〕

30 までの数について、数え方、構成、表し方、読み方などを理解するとともに、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算をすることができる。

知 30 までの数について、数え方、構成、表し方、読み方、順序、系列、大小を理解し、具体物の数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。また、 $10+6$ 、 $12+3$ 、 $16-6$ 、 $15-3$ のような加法、減法の計算をすることができる。

考 物の個数を 10 のまとまりとあといくつと捉えて、数を数え、表し方を考えることができる。また、数の構成に着目し、簡単な2位数と1位数の加減の計算の仕方を考えることができる。

主 身の回りの物を数えるなど、数の数え方や表し方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 20 までの かず (教 2: p.33~39)	1 2	・ 20 までの物の個数について、10 とあといくつという見方で数えるとよいことを知り、11 から 20 までの数を表したり、読んだりする。	知 20 までの数の構成、表し方、読み方を理解し、数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。 考 20 までの物の個数を 10 とあといくつと捉えて、数字で表せばよいと考えている。 主 20 までの数を、10 のまとまりをつくって数えようとしている。
	3	・ 20 までの数の構成の理解を深め、その順序、系列が分かる。また、2ずつ、5ずつまとめて数えるよさに気づき、まとめて数える。	知 20 までの数の構成、順序、系列を理解し、数を数えたり、表したりすることができる。 主 身の回りの物の数を工夫して数えようとしている。
	4	・ 20 までの数の構成の理解を深め、その合成・分解、順序、系列を理解する。	知 20 までの数の構成、順序、系列を理解している。
2 かずのせん (教 2: p.40~41)	5	・ 20 までの数直線の読み方を理解し、20 までの数の大小比較をする。	知 数直線の読み方を理解している。また、20 までの数の大小比較ができる。
3 20 より おおきい かず (教 2: p.42~43)	6	・ 20 より少し大きい数の構成や表し方、読み方について理解する。	知 20 より少し大きい数の構成や表し方、読み方を理解している。 考 20 までの数の表し方をもとに、20 より少し大きい数の表し方を類推的に考えている。

4 たしざんと ひきざん (教2p.44～45)	7	・ $10+6$ や $12+3$ のような加法の計算の方法を理解し、計算する。	<p>知 $10+6$ や $12+3$ のような加法の計算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p>考 数の構成に着目して、$10+6$、$12+3$ のような加法の計算の仕方を考えている。</p>
	8	・ $16-6$ や $15-3$ のような減法の計算の方法を理解し、計算する。	<p>知 $16-6$ や $15-3$ のような減法の計算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p>考 数の構成に着目して、$16-6$、$15-3$ のような減法の計算の仕方を考えている。</p>
たしかめもんだい (教2p.46)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 数の構成や系列を理解するとともに、具体物の数を数えたり、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算をしたりすることができる。</p>

8 なんじ なんじはん (教科書 2:p.47~49 時期:9月 配時:1時間)

〔単元の目標〕

「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができるとともに、時刻と生活を結び付けて考えることができる。

知 「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。

考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりすることができる。

主 時計に親しみ、時刻の読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 じこくの よみかた、 あらわしかた① (教 2:p.47~49)	1	・ 時刻と生活を結び付けて考えながら、「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりする。	<p>知 「何時」と「何時半」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。</p> <p>考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりしている。</p> <p>主 時刻の読み方を生活や学習に生かそうとしている。</p>

9 たしざんカード ひきざんカード（教科書 2: p.50～51 時期: 9 月 配時: 2 時間）

〔単元の目標〕

たし算やひき算の計算カードを順序よく並べ、その並びから数や式の規則性を見つけることができる。

知 順序よく並んだ計算カードの被加数、加数、被減数、減数の関係や、和や差の変わり方について理解する。また、1 位数と 1 位数の加法及びその逆の減法の計算に習熟する。

考 計算カードの並びから、数や式の規則性について考えることができる。

主 数や式の規則性の面白さに気づき、規則性をいろいろと見つけようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I たしざんカード ひきざんカード (教 2 p.50～51)	1	・ たし算の計算カードを順序よく並べ、その並びから規則性を見つける。	知 1 位数と 1 位数の加法の計算ができる。 考 計算カードの並びから、数や式の規則性について考えている。
	2	・ ひき算の計算カードを順序よく並べ、その並びから規則性を見つける。	考 計算カードの並びから、数や式の規則性について考えている。 主 数や式の規則性の面白さに気づき、規則性をいろいろと見つけようとしている。

ふくしゅう (教 2 p.52)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-
---------------------	---	----------------------------	---

10 3つの かずの けいさん (教科書 2:p.53~58 時期:9~10月 配時:5時間)

〔単元の目標〕

3口の数加法、減法及び加減混合の計算について、計算の意味や仕方を操作などをもとに理解し、場面を式に表して計算することができる。

知 3口の数加法、減法及び加減混合の場面の意味について理解し、式に表して計算することができる。

考 3口の数加法、減法及び加減混合の場面について、数量の関係に着目し、操作や図などを用いて考え、式に表したり計算の仕方を考えたり、式を読み取ったりすることができる。

主 3口の数加法、減法及び加減混合の場面を式で表すよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 3つの かずの けいさん (教 2:p.53~56)	1	・ 続いて起こる事柄を、3口の数 の加法の式に表せることを理 解し、答えを求める。	考 3口の数加法の場面や計算 の仕方を、ブロックや図などを用 いて考えている。 主 3口の数加法の場面を、1つ の式に表すよさに気づいている。
	2	・ 続いて起こる事柄を、3口の数 の減法の式に表せることを理 解し、答えを求める。	知 3口の数減法の意味について 理解し、式に表したり、計算した りすることができる。 考 3口の数減法の場面や計算 の仕方を、ブロックや図などを用 いて考えている。
	3	・ 続いて起こる事柄を、3口の数 の加減混合の式に表せること を理解し、答えを求める。	知 3口の数加減混合計算の意 味について理解し、式に表した り、計算したりすることができる。 考 3口の数加減混合の場面や 計算の仕方を、ブロックや図な どを用いて考えている。
2 もんだいづくり (教 2:p.57)	4	・ 問題づくりを通して、3口の数 の計算の意味の理解を深め る。	考 数量の関係に着目し、式と絵か ら具体的な場面を考え、言葉で 表現している。 主 3口の数加法の式から、具体的な 場面をいろいろと考えようとして いる。
たしかめもんだい (教 2:p.58)	5	・ 基本的な学習内容を理解して いるか確認し、それに習熟す る。	知 3口の数加法、減法及び加減 混合の場面について理解し、式 に表して計算することができる。

11 ながさくらべ (教科書 2:p.59~64 時期:10月 配時:4時間)

〔単元の目標〕

長さの比べ方を考え、直接比較や間接比較によって比べたり、任意単位を用いて数値化して比べたりすることができる。

知 身の回りにある物の長さについて、直接比較、間接比較、任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、長さを比べることができる。

考 身の回りにある物の特徴に着目し、長さについて、媒介物を用いて間接比較することや、任意単位のいくつ分かで数値化して測定することなど、比べ方を考えることができる。

主 長さに親しみ、長さの比較の仕方のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 ながさくらべ (教 2:p.59~64)	1	・ 長さの意味が分かり、直接比較によって長さを比較する。	知 直接比較の仕方を理解し、長さを比較することができる。 主 身の回りの物の長さに進んで関わり、比べ方を考えようとしている。
	2	・ 媒介物を用いて、長さを間接比較する方法を理解し、長さを比較する。	知 間接比較の仕方を理解し、間接比較によって、長さを比較することができる。 考 物の長さについて、媒介物を用いて間接比較することを考えている。
	3	・ 間接比較によって、身の回りにあるいろいろな物の長さを比較する。	考 物の長さに着目し、媒介物を用いて間接比較することを考えている。 主 身の回りにある物の長さを、進んで間接比較しようとしている。
	4	・ 任意の長さを単位として、そのいくつ分で長さを表し、長さを比較する。	知 任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、長さを比較することができる。 主 任意単位を用いた数値化による比較のよさに気づいている。

* どんないきさん するのかな (教 2:p.65)	1	* 具体的な問題場面で、どんな計算になるか考え、演算決定をして問題解決をする。	考 数量の関係を正しく捉え、式を立てた根拠を言葉、図、ブロックなどで説明することができる。 主 既習の学習を使って、演算決定
----------------------------------	---	---	---

			しようとしている。
--	--	--	-----------

*算数たまたばこ

12 たしざん (教科書 2: p.66~76 時期: 10~11 月 配時: 7 時間)

〔単元の目標〕

1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法について、10 のまとまりに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。

知 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる繰り上がりのある加法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

考 10 のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 繰り上がりのある加法の計算を用いて身の回りの問題を解決するなど、加法を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 たしざん (教 2: p.66~74)	1	〔アプローチ〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 答えが 10 になる加法を考える場面から数が大きくなると答えが 10 を超えることを予想し、繰り上がりのある加法に興味・関心をもつ。 ・ 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方(加数分解)を理解する。 	知 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方を理解している。 考 10 のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、説明している。 主 ブロックや図を使った考えや、被加数を 10 にする考えなどのそれぞれのよさを認めたり、関連付けたりしながら、話し合っている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の理解を深める。 	知 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算ができる。 考 被加数が 8 の場合も、前時の被加数が 9 の場合と同じように考えれば計算できると考えている。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方(被加数分解)を理解する。 	知 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方を理解している。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の理解を深める。 	知 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算を加数分解や被加数分解でできる。
2 たしざんカード	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ たし算の計算カードを用いて 	知 1 位数と 1 位数をたして、和が

(教 2 p.75)	6	計算の練習をし、計算に習熟する。また、計算カードを使ったいろいろな活動をし、答えが同じになるカードを見つける。	<p>11 以上になる加法の計算が確実にできる。</p> <p>主 答えが同じになる計算カードの並びから、規則性をいろいろと見つけようとしている。</p>
たしかめもんだい (教 2 p.76)	7	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算ができる、それを用いて問題を解決することができる。</p>
よみとるちからを のばそう (教 2 p.77)	1	・ 問題文を読み取り、たした答えが小さくなる組み合わせの条件を見つける。	<p>考 問題文から場面を読み取り、自分の考えを式や言葉を使って表現している。</p>

13 ひろさくらべ（教科書 2: p.78~79 時期: 11 月 配時: 2 時間）

〔単元の目標〕

広さの比べ方を考え、直接比較によって比べたり、任意単位を用いて数値化して比べたりすることができる。

知 身の回りにある物の広さについて、直接比較や任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、広さを比べることができる。

考 身の回りにある物の特徴に着目し、広さについて、直接重ね合わせて直接比較することや、任意単位のいくつ分かで数値化して測定することなど、比べ方を考えることができる。

主 広さに親しみ、広さの比較の仕方のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 ひろさくらべ (教科書 2: p.78~79)	1	・ 広さの意味が分かり、直接比較によって広さを比較する。	知 直接比較によって、広さを比較することができる。 主 身の回りの物の広さに進んで関わり、比べ方を考えようとしている。
	2	・ 任意の広さを単位として、そのいくつ分で広さを表し、広さを比較する。	知 広さも任意単位によって数値化して比較できることを理解している。 考 長さと同じように、任意単位を用いて広さを比べようと考えている。

14 ひきざん (教科書 2: p.80~87 時期: 11 月 配時: 7 時間)

〔単元の目標〕

10 いくつから1位数をひいて差が1位数になる減法について、「10 といくつ」とみる見方などに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。

知 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

考 被減数を「10 といくつ」とみる見方に着目し、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 繰り下がりのある減法の計算を用いて身の回りの問題を解決するなど、減法を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 ひきざん (教 2: p.80~85)	1	〔アプローチ〕 <ul style="list-style-type: none"> 10 から数をひく減法を考える場面から、被減数が大きくなった場合を予想し、繰り下がりのある減法に興味・関心をもつ。 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方(減加法)を理解する。 	考 被減数を「10 といくつ」とみる見方に着目し、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、説明している。 主 繰り下がりのある減法の計算の仕方について、これまでの学習をもとに考えようとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の理解を深める。 	知 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算ができる。 考 減数が8の場合も、前時の減数が9の場合と同じように考えれば計算できると考えている。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方(減々法)を理解する。 	知 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方を理解している。 考 10 のまとまりから1位数をひくよりも、被減数の一の位からひくことのよさに気づき、それを説明している。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の理解を深める。 	知 10 いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を減加法や減々法でできる。
2 ひきざんカード	5	<ul style="list-style-type: none"> ひき算の計算カードを用いて 	知 10 いくつから1位数をひいて、

(教 2 p.86)	6	計算の練習をし、計算に習熟する。また、計算カードを使ったいろいろな活動をし、答えが同じになるカードを見つける。	<p>差が 1 位数になる減法の計算が確実にできる。</p> <p>主 答えが同じになる計算カードの並びから、規則性をいろいろと見つけようとしている。</p>
たしかめもんだい (教 2 p.87)	7	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 10 いくつから 1 位数をひいて、差が 1 位数になる減法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。</p>

15 かさくらべ（教科書 2: p.88～90 時期: 11～12 月 配時: 2 時間）

〔単元の目標〕

かさの比べ方を考え、直接比較、間接比較によって比べたり、任意単位を用いて数値化して比べたりすることができる。

知 身の回りにある物のかさについて、直接比較、間接比較、任意単位を用いた数値化による比較の仕方を理解し、かさを比較することができる。

考 長さや広さの比較の仕方をもとに、身の回りにある物のかさについて、媒介物を用いて間接比較することや、任意単位のいくつ分かで数値化して比較することなど、比べ方を考えることができる。

主 かさに親しみ、かさの比較の仕方のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I かさくらべ (教科書 2: p.88～90)	1	・ かさの意味が分かり、直接比較や間接比較によってかさを比較する。	知 直接比較、間接比較の仕方を理解し、かさを比較することができる。 考 長さの学習をもとに、かさを比較する方法を考えている。
	2	・ 任意のかさを単位として、そのいくつ分でかさを表し、かさを比較する。	考 長さや広さの比較の仕方をもとに、かさを比較する方法を考えている。 主 任意単位を用いた数値化による比較のよさに気づいている。

16 いろいろな かたち (教科書 2:p.91~95 時期:12月 配時:5時間)

〔単元の目標〕

身の回りの物の形について、形状や機能性などの特徴を理解し、図形の理解の基礎となる経験を豊かにする。

知 身の回りにあるいろいろな立体図形や立体の面(平面図形)について、形状や機能性などの特徴を理解し、具体物を構成したり、絵をかいたりすることができる。

考 物の色、材質などを捨象して形に着目し、身の回りにあるいろいろな立体図形や立体の面(平面図形)について、形の特徴を捉えることができる。

主 身の回りにある物の形に親しみ、形を構成したり分類したりするたのしさやよさを感じながら学ぼうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 かたちづくり (教 2:p.91~92)	1 2	・ いろいろな箱や筒などの立体を用いて、身の回りにある具体物を作ったり、作った物について説明したりする活動を通して、物の形を認めたり、形の特徴を捉えたりする。	考 立体図形の形状や機能面に着目して、具体物を構成し、それを説明している。 主 立体図形に親しみ、身の回りの具体物を構成する活動のたのしさを感じながら学んでいる。
2 はこの かたち (教 2:p.93)	3	・ 箱や筒などの形に着目した仲間集めの活動を通して、立体の形の特徴を捉える。	知 基本的な立体図形の特徴を理解している。 考 物の色や材質などを捨象して形に着目し、立体図形の特徴を捉えている。
3 めんの かたち (教 2:p.94~95)	4 5	・ いろいろな箱や筒などの立体の面の形を写し取り、絵をかく活動を通して、基本的な平面図形の特徴を捉える。	知 基本的な立体図形の構成要素である平面図形の特徴を理解している。 考 立体の面を写しかいた絵について、どんな形を使ったかを説明している。
ふくしゅう (教 2:p.96)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

17 大きな かず (教科書 2:p.97~111 時期:1~2 月 配時:11 時間)

〔単元の目標〕

120 程度までの数について、構成や表し方、読み方などを理解し、10 のまとまりに着目して数を捉え、簡単な2位数の加法、減法の計算をすることができる。

知 120 程度までの数について、数の数え方、構成、表し方、読み方、順序、系列、大小を理解し、具体物の数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。また、簡単な2位数の加法、減法の計算をすることができる。

考 2位数の表し方、読み方について、既習事項をもとに類推的に見いだしたり、10 を単位とした数の見方に着目し、何十の加法、減法の計算の仕方を見いだしたりすることができる。

主 10 のまとまりに着目して数を数えることや計算をすること、10 を単位とした数の表し方のよさに気づき、日常生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 100 までの かず (教 2:p.97~102)	1 2	・ 具体物の個数を 10 のまとまりをつくって数え、2位数の構成や表し方、読み方を理解する。	知 2 位数の構成、表し方、読み方を理解し、100 未満の数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。 考 既習の数から類推して、2 位数の表し方や読み方を考えている。
	3	・ 2位数の構成の理解を深める。	知 2 位数の構成を理解している。
	4	・ 100 の構成や大きさ、表し方、読み方を理解する。	知 100 の構成、表し方、読み方を理解している。
2 100 までの かずの ならびかた (教 2:p.103~104)	5	・ 数表を使って 100 までの数の並びについて調べ、その特徴に気づく。	知 100 までの数の順序、系列を理解している。 考 数表から 100 までの数の並び方の特徴に気づき、それを説明している。
3 100 より 大きい かず (教 2:p.105)	6	・ 120 程度までの3位数について、構成、表し方、読み方、順序、系列を理解する。	知 120 程度までの 3 位数の構成、表し方、読み方、順序、系列を理解し、順序、系列に従って数を並べることができる。
4 かずのせん (教 2:p.106~107)	7	・ 120 程度までの数の数直線を見て、数の系列、大小などを理解する。	知 120 程度までの数の数直線の読み方を理解する。また、120 程度までの数の大小を比較することができる。 考 数の構成や数直線上の位置を

			もとに、数の大小を判断している。
おうちでさんすう (教2p.107)	-	・ 既習を生活の中で生かし、身の回りの数を読んだり、数を唱えたりする。	-
5 たしざんと ひきざん (教2p.108~109)	8	・ 「何十」+「何十」(和が100まで)の計算や、「何十」-「何十」、100-「何十」の計算の方法を理解し、計算する。	知 「何十」+「何十」や「何十」-「何十」の10を単位とした答えの求め方を理解し、計算できる。 考 10を単位とした数の見方に着目し、「何十」+「何十」や「何十」-「何十」の計算の仕方を見いだしている。
	9	・ 2位数+1位数(繰り上がりなし)や、2位数-1位数(繰り下がりなし)の計算の方法を理解し、計算する。	知 2位数+1位数や2位数-1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。
6 かずの みかた (教2p.110) *かずを 見つけよう (教2p.110)	10	・ 2位数を様々な見方で捉え、数の感覚を豊かにする。 * 身の回りで使われている数字や数を見つけ、数の理解を深める。	考 1つの数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。
たしかめもんだい (教2p.111)	11	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数の構成や数の系列を理解し、数を数えることができる。また、簡単な場合の2位数の加法、減法の計算ができる。

*算数たまたばこ

18 なんじなんぷん (教科書 2: p.112~116 時期: 2 月 配時: 3 時間)

〔単元の目標〕

「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができるとともに、時刻と生活を結び付けて考えることができる。

知 「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。

考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりすることができる。

主 時計に親しみ、時刻の読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 じこくの よみかた、 あらわしかた② (教 2: p.112~116)	1 2	・ 時刻と生活を結び付けて考えながら、「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりする。	知 「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。 考 短針と長針の役割や関係をもとに時刻の読み方を考えたり、時刻と生活を結び付けて考えたりしている。
	3	・ 時刻の読み方を練習し、習熟する。	知 「何時何分」の時刻を読んだり、模型時計で表したりすることができる。 主 時刻の読み方を生活や学習に生かそうとしている。
おうちでさんすう (教 2: p.116)	-	・ 既習を生かし、普段から時刻を意識して生活する。	-

19 ずを つかって かんがえよう

(教科書 2:p.117~124 時期:2 月 配時:6 時間)

〔単元の目標〕

図を用いて数量の関係を捉え、順序数や異種の量、求大や求小の場面でも加法、減法が適用できることを理解し、加法、減法の意味の理解を深める。

知 順序数や異種の量、求大や求小の場面について、加法、減法の式に表せることを理解し、問題を解決することができる。

考 順序数や異種の量、求大や求小の場面について、図に表して数量の関係を捉え、立式の根拠を説明することができる。

主 図を用いて数量の関係を捉えるよさに気づき、学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 ずを つかって かんがえよう (教 2:p.117~123)	1	・ 順序数の問題について、加法や減法が適用できることを理解し、図を活用して問題を解決する。	知 順序数の問題について、加法や減法を適用し、立式して答えを求めることができる。 考 順序数の問題について、図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。
	2	・ 前後の人数に 1 を加える問題について、図をもとに数量の関係を捉え、解決する。	考 図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。 主 図を用いて数量の関係を捉えるよさに気づき、学習に生かそうとしている。
	3	・ 異種の量について、加法や減法が適用できることを理解し、図を活用して問題を解決する。	知 異種の量について、加法や減法が適用できることを理解し、立式して答えを求めることができる。 考 異種の量の問題について、図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。
	4	・ 求大の場面で加法が適用できることを理解し、図を活用して問題を解決する。	知 求大の場面で加法を適用し、立式して答えを求めることができる。 考 求大の問題について、図をもとに数量の関係を捉えて立式し、その理由を説明している。

	5	・ 求小の場面で減法が適用できることを理解し、図を活用して問題を解決する。	<p>知 求小の場面で減法を適用し、立式して答えを求めることができる。</p> <p>主 求大の図の表し方をもとに、求小の場面でも図を用いて考えようとしている。</p>
たしかめもんだい (教2p.124)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>考 図を用いて数量の関係を捉え、問題を解決している。</p>

* おなじ かずずつ わけよう (教2p.125)	1	* 具体物のいろいろな分け方を考え、図や式に表す。	<p>知 具体物を同じ数ずついくつかに分けることができる。</p> <p>考 具体物の分け方を考え、図や式で表現している。</p>
---------------------------------	---	---------------------------	---

*算数たまたばこ

20 かたちづくり (教科書 2: p.126~130 時期: 3 月 配時: 4 時間)

〔単元の目標〕

基本的な平面図形の特徴や操作について理解し、図形の理解の基礎となる経験を豊かにする。

知 色板や数え棒、点と点を用いて、いろいろな形を構成することができる。また、基本的な平面図形の特徴や移動の操作について理解する。

考 色や向きを捨象して形に着目し、形の特徴を捉えることができる。

主 平面図形に親しみ、図形を構成したり、移動させたりする活動をたのしみながら学ぼうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 いろいろたならべ (教 2: p.126~128)	1	・ 色板を用いていろいろな形を構成し、基本的な平面図形についての見方を深める。	知 色板を用いて、いろいろな形を構成することができる。 主 平面図形に親しみ、色板を用いた図形の構成活動をたのしみながら学んでいる。
	2	・ 色板の移動について、ずらす(平行移動)、回す(回転移動)、裏返す(対称移動)などの操作に関心をもち、その特徴を理解する。	知 ずらす、回す、裏返すなどの基本的な操作について理解している。 考 色板を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、いろいろな形を構成することを考え、どのような操作をしたか説明している。
2 かぞえぼうならべ (教 2: p.129~130)	3	・ 数え棒を用いていろいろな形を構成し、基本的な平面図形についての見方を深める。	知 中空の場合でも、中実のものと同様に物の形を認識し、数え棒を用いて、いろいろな形を構成することができる。 主 基本的な平面図形に親しみ、数え棒を用いた図形の構成活動をたのしみながら学んでいる。
	4	・ 点と点を線でつないでいろいろな形を構成し、基本的な平面図形についての見方を深める。	知 基本的な平面図形の特徴について理解し、点と点を線でつないで、いろいろな形を構成することができる。

よみとるちからを のばそう (教 2: p.131)	1	・ 複数の情報の中から、必要な情報を選択し、適切に問題を解決する。	考 複数の情報の中から、必要な情報がどれかを正しく判断し、説明している。
プログラミングに	-	・ ゴールにたどり着くために、命	考 命令カードの意味を理解し、ど

<p>ちょうせん! (教2p.132~133)</p> <p>* みのまわりの プログラミング</p>		<p>令をどのような順序で組み合わせればよいかについて考える。また、左右についての理解を深める。</p> <p>* 生活の中でプログラムが使われている場面を知り、興味・関心を高める。</p>	<p>のような順序で組み合わせればよいかについて考えている。</p>
<p>1年の ふくしゅう (教2p.134~136)</p>	<p>1 2</p>	<p>・ 1学年の復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。</p>	<p>-</p>